

この羅針盤デザインは、奈良高校らしさ、そしてこの先の未来へのエールを込めて制作しました。

まず、全体的なモチーフは梅の花です。梅は学問の神様と呼ばれる菅原道真が愛したものであり、縁起物として扱われています。また、今の元号である「令和」の出典も万葉集の梅花の歌ということで、時代にも即していると考えました。中庭全体との調和としても、羅針盤は庭の中の春の位置にあり、春の訪れを告げる梅の花がぴったりではないかと考え、取り入れました。

次に、羅針盤としてのデザインとして、真ん中のパーツに典型的な羅針盤をそのまま使いました。周りを囲む模様は雷紋です。雷は植物を成長させる力があるということで、前述した梅や、庭全体の植物に関連させてみました。この模様は日本や中国などアジアの印象が強いですが、古代ギリシャにも存在しており、アテネの学堂にも似た模様が採用されています。針はペンと鉛筆のモチーフで表現しました。アリストテレスとプラトンに注目してほしいということで、像に向かう矢印として配置しました。

ここまで受け継がれてきた100年の歴史を受け止め、これらのモチーフを使って表現しています。そしてここからの未来へ繋がるメッセージとして、庭に引かれた白い道を引き込んでいます。この道は、奈良高校の生徒たちがそれぞれの進路を歩んだとしても、楕円の焦点で反射し、アリストテレスとプラトン、すなわち母校へ帰って来るという意味が込められています。それを羅針盤にも引き込むことで、この地から進んでいく生徒たちの未来へのエールを表現しました。